

5月15日(日) 認知症支援介護研究・研修東京センター 永田久美子研究部長にお越し頂きました。



午前中に行われた、「NPO老いを支える北九州家族の会」の学習会では、まず参加者がそれぞれの介護状況を報告し、その内容を踏まえて認知症高齢者と家族が、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けるために、さまざまな視点で本人を知る手法として、大切にしていること、わかかってほしいことを伝える手法を学びました。

午後からは「認知症になったの生き方・支えあひ方」という演題で、認知症支援・介護予防センターオープニング記念講演会の講師をお勤め頂きました。高田代表理事が「認知症の人の心をよく知って、理解し、支援し、つながることが大事。お話を伺って私たちが頑張ればもっといい北九州市になると確信しました」と謝辞を述べました。

参加申し込み受付中です!
第1期を受講された方、地域や事業所でカフェをやってみてみたい方、認知症の学習をしたい方、歓迎します。

カフェマスター研修会(第2期)

① 6月11日(土) 13時~16時

前半 「認知症を学びましょう!」
後半 どんな病気なのか? (75分)

② 6月13日(月) 18時~20時

前半 「かかりつけ薬剤師」
後半 薬剤とかかりつけ薬剤師を知っていますか? (45分)

③ 6月16日(木) 13時30分~16時

前半 「認知症カフェの意味と意義」
後半 薬局とかかりつけ薬剤師をうまく使ってください (45分)

④ 6月22日(水) 15時~17時

前半 「お口から始まる大切なこと」
後半 歯科の視点から (60分)

⑤ 6月24日(金) 13時30分~16時

前半 「レクにも使える運動を学びましょう!」
後半 五感の刺激で脳活性化! (60分)

後半 ロコモを理解し予防しよう! (90分)
連絡先 090-2968-9463 (中村)
090-7159-1133 (田代)

閑話休題

永田久美子先生とお話して、「この方なんて聞き上手なんだろう」と思った。相手の目を見て最後まできちんと話を聴き、優しく相槌を打つ。日々、多くの方に出会うであろう永田先生はその繰り返しで、もともとたくさんお持ちの「お話の引き出し」をさらに深く充実させておいでだ。

最近、「本当の介護家族」になった。認知症支援の活動を始めたのは、神奈川に残してきた母のレビー小体型認知症発症がきっかけだったが、私はショックを受けただけで、実際の介護は義妹が頑張ってくれていた。最近義母と叔母が認知症になった。年齢を考えれば「さもありなん」だが私にはまだ「覚悟」がなかった。二人の話は常に「最初から」で積み上げがない。説得の末、ようやく通うようになったデイサービスは、行けば満面の笑みで帰ってくるが、翌朝はまた「行かないから」の説得から始まる。まったくもう!

カリカリするときは、笑顔の永田先生を思い出そう。ご紹介頂いた本の扉にミヒヤエル・エンデの童話「モモ」の一節が掲げられている。「小さなモモにできたこと、それはほかでもありません。相手の話を聞くことでした。」(ま)



「認知症の人たちの小さくて大きなひと言 私の声が聞こえますか?」 監修 永田久美子 発行:(株) harunosora 定価 1,700円